

## 高品質で安全・安心な米づくりは、土づくりと健苗育成から！！

高品質で美味しいお米の生産は、田植前から始まっています。土づくりの継続と健苗育成により、今年の稲作に向けて好スタートをきりましょう。

### ケイ酸質資材の施用

～継続して施用しましょう～

○昨秋にケイ酸質資材を散布できなかったほ場では、春に施用しましょう。

※ケイ酸には、割粃（カメムシ被害）や倒伏を軽減する効果があります。

○ごま葉枯病が見られた水田には、鉄を含む土づくり資材を散布しましょう。

ケイ酸質資材の施用量の目安

資材名	施用量(10a 当り)
① 有機加里入りシリカロマン2号	80kg以上
② 鉄田満太郎	100kg以上
③ シリカロマン	80kg以上
④ 砂状ケイカル	200kg



【ごま葉枯病】

③、④を施用した場合は、カリを補給するため6月中下旬に「エスアイ加里らくだ」または「エスアイ加里カリ投げくん」を施用しましょう。

### 有機物の施用

たいひ  
～堆肥散布で地力を高めよう～

有機物の施用量の目安(10a 当たり)

堆肥の種類	施用量
発酵鶏ふん	75～100kg

注) 春に発酵鶏ふんを施用したほ場では  
基肥をチッソ成分で1～2kg/10a 減肥  
しましょう。

### 深耕の実施

～春は深耕しで作土深の拡大を図ろう～

○春耕時はトラクターの速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう。

### 春作業に向けての安全対策

ハウスのビニール張りやトラクターによる耕起作業など、春作業による事故が発生しています。事前に危険な作業を見直し、事故防止対策を徹底しましょう。

○農業機械の点検と整備

早めにトラクター、田植機の点検を行いましょう。

⇒バッテリー充電（セル始動で確認）・エンジンオイル・ミッションオイルの量及びエアクリナー・ラジエーター防虫網の汚れをチェック。



令和5年 春の農作業安全運動 展開中!

○突き出た鉄骨など、施設内の危険個所は、作業員みなで確認、情報共有し、クッションで覆うなど安全対策を施しましょう。

ウラに続く

## 育苗作業の目安

～コシヒカリ・富富富の田植は5月15日を中心に～

○田植日に合わせて育苗計画を立てましょう。

○コシヒカリの育苗日数（播種した日から田植日まで）は19日以内となるよう計画しましょう。

品種	田植予定	浸種	催芽	播種	搬出
てんたかく てんこもり	5月5日	4月1日	4月12日	4月13日	4月16日
コシヒカリ	5月15日	4月17日	4月25日	4月26日	4月29日
富富富		4月15～16日			

## 種子消毒

○種籾は種籾袋に詰めすぎないように、余裕を持たせましょう。

○消毒開始時は適水温（12.5℃）で浸種を行い、その後は2～3日間は水の入れ替えを行わず、種子消毒の効果を高めましょう。

○処理後の消毒液は河川に流れないように適切に処理を行いましょう。

## 浸 種

～しっかり浸種して催芽を揃えましょう～

○浸種期間の水温は10～15℃を確保しましょう。

○浸種積算温度（水温×日数）の目安は消毒期間を含め100℃程度としましょう。

※浸種完了の目安は、「種籾の胚乳がアメ色で透明になった頃」です。

○浸種水量は種籾重量の2倍を確保し、種籾が十分つかる程度にしましょう。

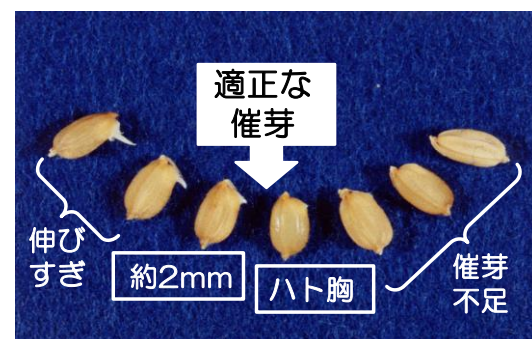
その後は2日に1回は水を交換し、種籾袋の上下を入れ替えて催芽ムラをなくしましょう。

## 催 芽

○育苗器のサーモスタットが正常に動作するか事前に確認しましょう。

○催芽温度は30℃で、芽の長さはハト胸から2mm程度に揃えましょう。

催芽時間の目安は18時間程度です。



## 播種・出芽

○播種量は箱当たり乾籾120g（催芽籾150g）です。（消毒済み種子1袋で33箱程度）

○播種時にナエファインフロアブル2,000倍液を1箱当たり1ℓ灌注しましょう。

○育苗器の温度は30℃を厳守（30℃を超えると病気が発生しやすくなります）し、日数は2.5～3日間を目安に、芽の長さ1cmを確認してから搬出してください。

## 搬出～緑化期（1葉期）

温度管理の目安

苗のステージ		緑化期	硬化期
育苗日数		2～3日	13～15日
		(3～4日)	(15～20日)
温度	昼	25℃以下	
	夜	10℃以上	

注) ( )内は4月上旬に播種した場合

○搬出後のかん水は、晴天の場合は十分に、曇雨天の場合は覆土を落ち着かせる程度にしましょう。

○搬出直後でもハウス内の温度が25℃以下となるよう換気を行いましょう。

○寒冷紗等の被覆資材で遮光し、白化を防止しましょう。被覆資材は緑化後（3日以内）にはずしましょう。

○温度計は苗の高さに設置し、適切に温度管理をしましょう。

## 硬化期

○かん水は、原則として早朝にたっぷりとかけましょう（床土が乾くようなら日中にも追加かん水しましょう）。

○フェーン時などは、葉やけを防ぐために、床土が乾き、葉が巻く前にかん水しましょう。

○日中はハウス内の温度が25℃以上にならないように、積極的に換気を行い15～20℃で管理しましょう。

○田植えの7日前頃からは、昼夜ともにハウスを換気しましょう。（低温や強風が予想される場合を除く）

○ムレ苗の兆候がみられたら、直ちにタチガレエースM液剤を500倍で1箱当たり500mlを灌注してください。

○ご不明な点はJA高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター 高岡班(26-8477) までお尋ねください。